

1 オープンハウス

(1)オープンハウス概要

- 実施目的
- 基本構想の周知を行うとともに、基本計画策定に向け、新庁舎のコンセプトや各機能の方向性等に係る市民意見を把握するため
- 実施日・会場
- 花畑広場(5月3日・4日)、サクラマチクマモト(5月7日・8日)
本庁舎(5月12日・13日)、上通(5月31日)、下通(6月8日) 計8回
- 参加者
- 1,396人

(2)新庁舎に期待するポイント(自由記述)

「市民利用スペース」に関するご意見が202件で最も多く、次いで「快適性・ユニバーサルデザイン」(78件)、「アクセス・駐車場」(52件)、「窓口・手続」(49件)の順となっている。

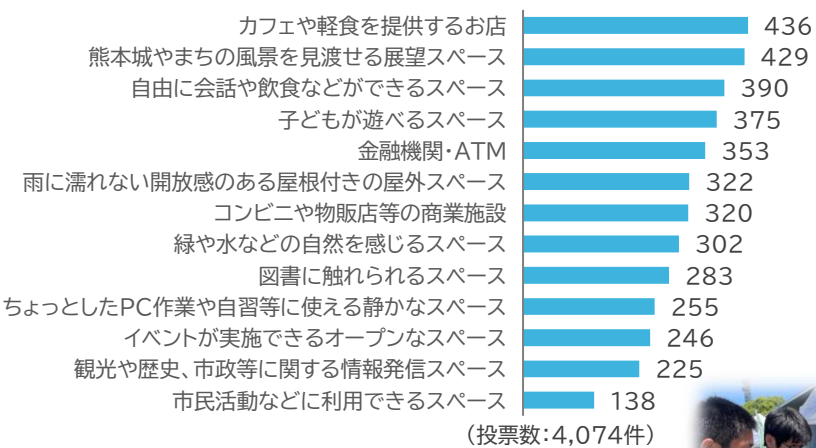
分類	主なキーワード	件数
市民利用スペース	子どもが遊べる、図書、休憩、自習、カフェ、食堂、売店、イベント、交流、展望、情報発信	202
快適性・ユニバーサルデザイン	広いトイレ、高齢者、子育て世代、障がい者、外国人	78
アクセス・駐車場	広い駐車場、公共交通、障がい者用駐車場	52
窓口・手続	わかりやすい案内、待ち時間、通訳	49
景観・デザイン	周辺とマッチ、熊本城、明るい、開放的、緑	39
災害対応	災害に強い、防災拠点、避難	33
周辺施設との連携	サクラマチ、花畑広場、周辺駐車場	22
施設規模・事業費	コンパクト、お金をかけない	8
職員の執務環境	働きやすい、サービス向上、人材確保	6
その他	環境、現庁舎跡地	41

(意見数:530件)

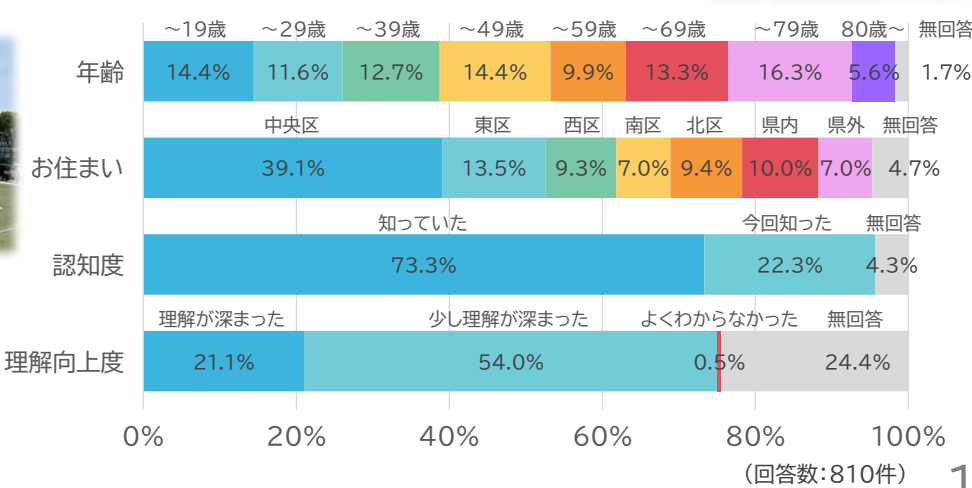


(3)市民利用スペースに欲しいもの(シール投票)

「カフェや軽食を提供するお店」が436件で最も多く、次いで「熊本城やまちの風景を見渡せる展望スペース」(429件)、「自由に会話や飲食などができるスペース」(390件)、「子どもが遊べるスペース」(375件)の順となっている。



(参考)認知度調査



2 アンケート

(1)アンケート概要

■調査目的

基本計画策定に向け、コンセプトや各機能の方向性等に係る
市民意見を把握するため

■調査期間

令和7年(2025年)5月20日～6月10日

■調査対象

2,000人※本市在住で、かつ、満18歳以上の方を無作為抽出

■調査方法

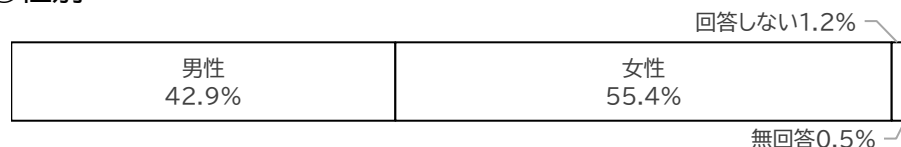
郵送による調査票の配布※回答はWEB也可

■回収数

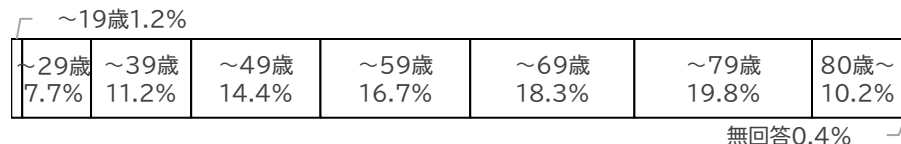
742票(郵送 494票、WEB 248票)

(2)回答者の基本情報

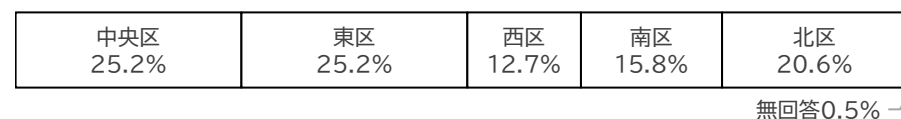
①性別



②年齢



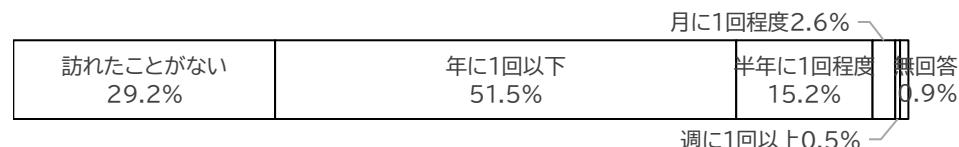
③お住まい



(3)現庁舎の利用状況

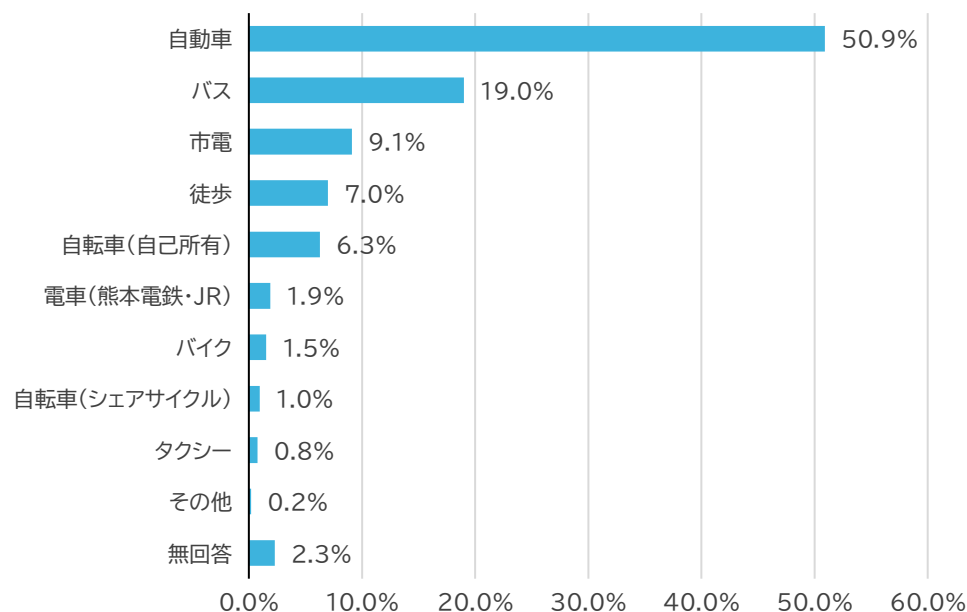
①現庁舎の利用頻度

過去5年間で本庁舎等を訪れた回数について尋ねたところ、「年に1回以下」が51.5%で最も高く、次いで「訪れたことがない」(29.2%)、「半年に1回程度」(15.2%)の順となっており、全体の69.8%が本庁舎等を訪れたことがある。



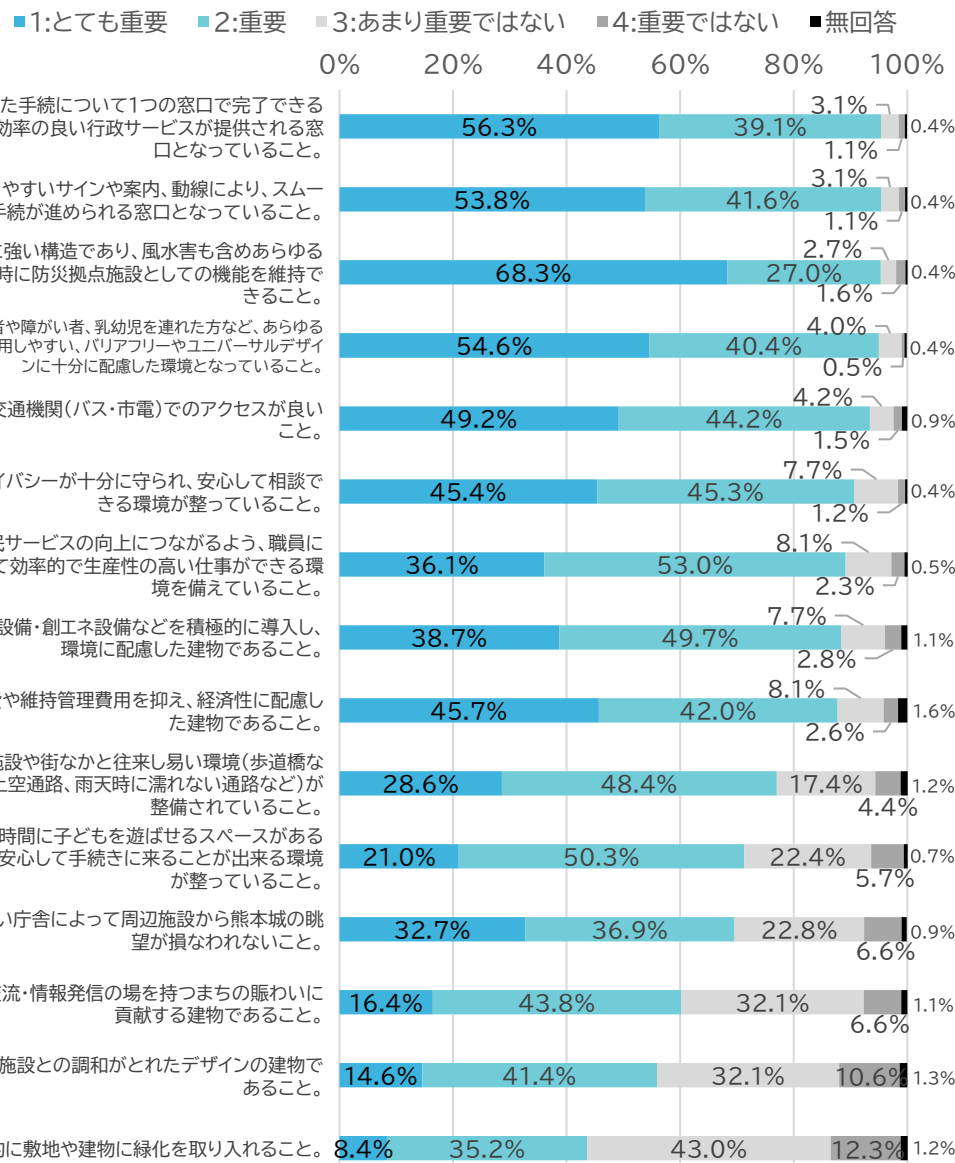
②現庁舎への来庁手段

現庁舎(本庁舎及び中央区役所)への主な交通手段について尋ねたところ、「自動車」が50.9%で最も高く、次いで「バス」(19.0%)、「市電」(9.1%)、「徒歩」(7.0%)、「自転車(自己所有)」(6.3%)の順となっている。



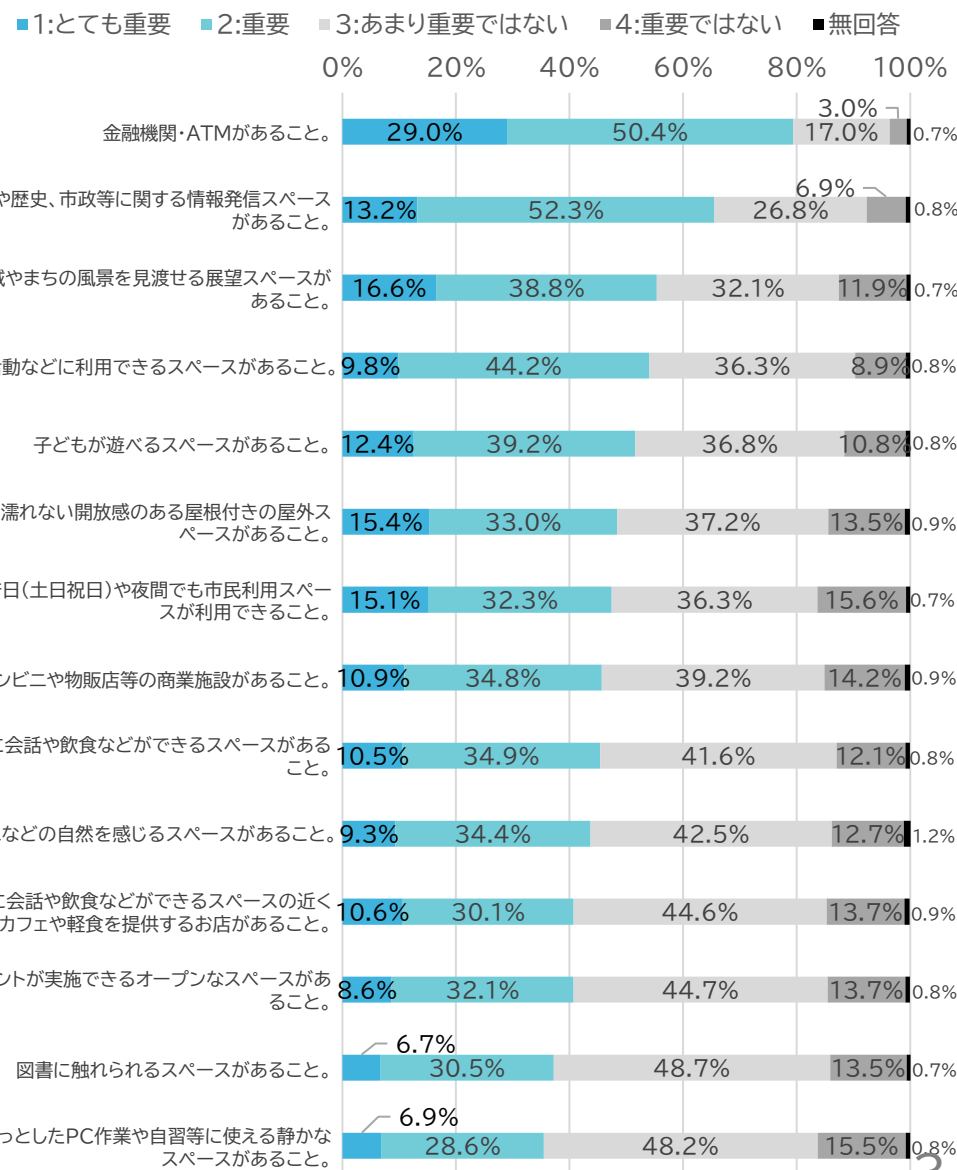
(4)新庁舎の方向性

新庁舎の整備にあたり、各項目の重要度について尋ねたところ、「とても重要」「重要」と答えた方の割合が高い順は、以下のとおりとなっている。



(5)市民利用スペースに求める機能

市民利用スペースに導入する機能についての重要度について尋ねたところ、「とても重要」「重要」と答えた方の割合が高い順は、以下のとおりとなっている。



(6)本庁舎移転後の来庁手段

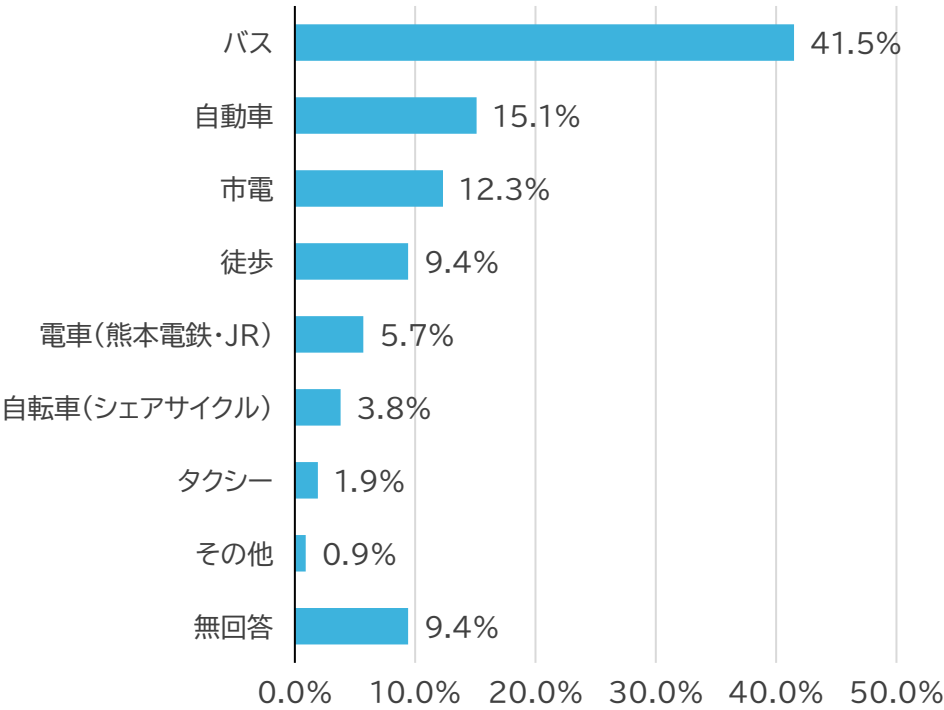
①来庁手段の変更

本庁舎移転後、来庁手段が変わるかを尋ねたところ、「変わる」は14.3%、「変わらない」は83.6%となっている。



②移転後の来庁手段

①で「変わる」と回答した方に、本庁舎移転後の来庁手段として考えられるものを尋ねたところ、「バス」が41.5%で最も高く、次いで「自動車」(15.1%)、「市電」(12.3%)、「徒歩」(9.4%)、「電車(熊本電鉄・JR)」(5.7%)の順となっている。



(7)自由記述

「新庁舎を整備する上で重要だと思うこと」、「市民利用スペースにあれば便利だと思う機能」について、ご意見や具体的なアイデアを尋ねたところ、ご意見が422件あった。

下記の分類項目で整理したところ、「市民利用スペース」に関するご意見が71件で最も多く、次いで「窓口・手続」(50件)、「施設規模・事業費」(49件)、「快適性・ユニバーサルデザイン」(39件)の順となっている。

分類	主なキーワード	件数
市民利用スペース	子どもが遊べる、図書、自習、休憩、カフェ、食堂、イベント、交流、展望、情報発信、運動、動物、休日	71
窓口・手続	わかりやすい案内、相談しやすい、窓口一元化、待ち時間、オンライン、DX	50
施設規模・事業費	必要最小限、事業費削減、費用対効果、維持費、有利な財源	49
快適性・ユニバーサルデザイン	広いトイレ、広い待合スペース、高齢者、子育て世代、障がい者、外国人	39
アクセス・駐車場	広い駐車場、料金の割引、公共交通、アクセスしやすい	32
災害対応	災害に強い、防災拠点、避難	31
職員の執務環境	働きやすい、効率的、サービス向上	19
周辺施設との連携	サクラマチ、花畑広場、熊本城ホール、周辺の商業施設	18
景観・デザイン	周辺と調和、熊本城、明るい、開放的、緑化	16
建て替え不要	不要、反対	14
他の施策	地下水保全、渋滞対策、水道管耐震化	11
その他	職員の質の向上、アンケート内容、現庁舎跡地、周辺まちづくり、環境	72

3 ワークショップ

(1)ワークショップ概要

■実施目的

市民利用スペースの機能に係る市民意見を把握するため

■参加者

本市に住むか通勤・通学する高校生以上の方 各回約30名(公募)

■実施日・テーマ(内容)・会場

第1回「まちなか庁舎を語ろう！」

新庁舎を契機としたまちづくりについて考えるとともに、
その中での新庁舎に求められる役割を考える

(6月15日 熊本城ホール中会議室)

第2回「新庁舎をどう使う!？」

本庁舎、区役所それぞれについて、
過ごし方や求められる空間・機能をイメージする

(7月6日 熊本城ホール中会議室)

第3回「新庁舎の未来を思い描く！」

市民利用スペース(低層部、屋上、屋外など)を中心に、
新庁舎の未来を思い描く

(8月3日 市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室)



(2)第1回「まちなか庁舎を語ろう！」

<グループワーク内容>

通町筋・桜町周辺地区のマップを見ながら、まちの良いところやポテンシャルを挙げ、付箋に書く。

付箋を見ながら、まちの将来像やその実現に向けた新庁舎周辺の役割、まちなか庁舎のあり方について話し合い、意見をまとめる。

<グループワーク成果>

テーマ①どんなまちになってほしい？

通町筋・桜町周辺地区の「まちの将来像」 に関するご意見まとめ

- ・熊本城や自然など、熊本らしさが詰まったまち
- ・人が中心の、回遊したくなるまち
- ・安心安全で、こども達が楽しめるまち
- ・商店街のポテンシャルで、昼も夜も楽しめるまち
- ・老若男女が憩えるまち

テーマ②まちの将来像実現に向けて、新庁舎周辺の役割は？

新庁舎周辺地区の位置づけ・役割 に関するご意見まとめ

- ・いつでも多様な人が集える場所
- ・日常利用と災害対応を備える
- ・回遊の拠点
- ・情報の発信と収集
- ・まちに足りない機能を補完

まちなか庁舎のあり方 に関するご意見まとめ

- ・熊本らしさを感じる庁舎
- ・安全安心を守る防災拠点
- ・だれでも日常利用できる場所
- ・環境への配慮
- ・カッコ良い、愛着をもてる庁舎

(3)第2回「新庁舎をどう使う!?!」

<グループワーク内容>

グループ毎に新庁舎の利用者像(2人)を設定する。
その利用者像が新庁舎を利用する場面と理想的な過ごし方を想像し、
必要な空間と機能は何かについて話し合い、意見をまとめる。

イラスト出典：居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図
(熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン)

<グループワーク成果>



テーマ① 想定した新庁舎の利用者像

70代男性：手続きで来庁、杖を使用	3人家族：休日に買い物ついでに立ち寄り
30代女性：乳幼児連れ、車で来庁	50代男性：他県職員、情報収集に来庁
40代女性：車いす使用、バスで来庁	3人家族：県外から観光に、土地勘ない
50代男性：仕事で本庁舎、私用で区役所に	10代女性：高校の友達と放課後自習に
10代女性：塾帰りに友達と一緒に立ち寄り	40代女性：平日の夕方、イベントついでに
3人家族：県外から観光に、荷物多い	50代男性：母親の手続きの為、県外から来庁
20代男性：海外から転入、日本語話せない	30代夫婦：障がいに関する相談に、妻が介助

テーマ② 庁舎での過ごし方、必要な空間・機能

理想的な過ごし方

必要な空間・機能

利用しやすい	色んな方向からアクセスできる	複数の出入口
	外から駐車場の入り口がすぐ分かる	(空き)駐車場が分かりやすい標識
	サクラマチクマモトからアクセス	サクラマチクマモトと接続
	レンタサイクルでアクセス	敷地内にレンタサイクルポート
楽しく快適に	手続を効率的に	予約システム、AIコンシェルジュ
	だれでもゆったり休憩	カフェやキッズスペースを備えた休憩スペース(クーリングシェルター)
	観光や歴史等の情報収集	情報発信コーナー
	熊本城の展望を楽しむ	屋上に展望スペース(屋根付き)
誰でも安心	各種イベントに参加	商業的、多目的に活用できるイベントスペース
	障がい者が通りやすい動線	障がい者の動線計画
	こどもを遊ばせながら休憩	キッズスペースの設置
	だれにでも行先を分かりやすく	分かりやすいサインの設置
	外国人の方もスムーズに手続	多言語対応タブレットの設置

(4)第3回「新庁舎の未来を思い描く!」

<グループワーク内容>

これまでの成果を振り返り、本庁舎・区役所それぞれの市民利用スペースの役割について整理。

その役割や建物の構成、立地特性等を踏まえ、市民利用スペースに必要な空間・機能について話し合い、意見をまとめる。

<グループワーク成果>

テーマ① 市民利用スペースの役割

本庁舎

皆が楽しめる憩いの場/夜間も使えるスペース
いつでも使える7/7/防災に役立つ/ネーミングで親しみやすく/観光の拠点/情報の発信と受信(歴史・文化・地理・まちでの活動)/集い・交流の場/フレキシブルに使える/敷居が低い/熊本に来た人に文化歴史を発信し交流できる/何かしたい人を後押しする(観光・市民活動・企業スタートアップ等)/熊本愛(誇り)シビックプライドを育む場所(むかえ入れる本庁舎)

区役所

区民が憩う交流スペース/観光案内・長堀通りから本庁舎方向の回遊性をつくる/市民が話し合い活動を行える場/機能を特化させる/地元住民が情報・学びを得る/地元(区)の人達の交流や情報を発信/熊本LIFEをエンジョイする場所(つつみ込む区役所)

テーマ② 必要な空間・機能

	本庁舎	共通で出た意見	区役所
屋上部	こどもの遊び場/カフェ(夜も営業)/サクラマチと接続/銭湯(災害時)/ヘリポート/自習スペース	展望スペース(熊本城)/屋上庭園	屋根付きスペース/休憩スペース/会議室
中層部	サクラマチと接続/待ち時間を楽しく/行政サービスと市民が連携	自習スペース/情報発信スペース/コンシェルジュ(各種案内)	こどもの遊び場/コワーキングスペース/会議室
低層部	こどもの遊び場/水を感じる/フリースペース/コワーキングスペース/カフェ/会議室/シャワー(災害時)/展示ギャラリー/サクラマチと接続	情報発信スペース/商業利用スペース/休憩スペース/オープンスペース(屋根付き)/クーリングシェルター/自習スペース/図書	多方向に出入口/多目的活動スペース/長堀通りとのつながり/多世代憩いの場/ドライブスルー手続/市場(マルシェ)/ホワイトボードの壁/駐車場(障がい者用)/チャレンジショップ